

## 一步一步を着実に

河内 勇樹 (No. 4616)

この会報をお読みの現役学生の皆様、まずは自分をほめましょう。この財団の情報を見つけて応募が出来たこと、応募作文を書いたこと、なかなかの厚さのあるこの広報を開いて文章を読んでいることを…。私は、人生は人と情報との出会いで半分以上が決まってしまうと思っています。そんな中、この財団の情報にたどり着き、6月の懇談会やこの会報で仲間に出会おうとする私たちの未来は明るいはずです。

さて、私はこの春、大学を1年繰り上げて3年間で卒業しました。早期卒業制度利用のために「90%の科目でA以上の評価」が必要だったため、成績には特に気を使ってきており、それが幸いしてこの会からも貸与金の一部の返還を免除して頂けることになりました。学生支援機構と合わせた貸与総額がサラリーマン平均年収を大きく超える厳しい状況の中での今回の免除は大変ありがたく、また今後の励みにもなりました。



今回は、これまでの学生生活の経験から、会の仲間に私からできるアドバイスを、3つほどお伝えします。

まず、情報をしっかりと集めること。私が利用した早期卒業制度は入学時に配布された学生便覧にわずか10行程度で紹介されているだけで、ガイダンスやウェブでの周知はありませんでした。制度利用の申請に行くと、大学事務局の担当者から「制度を使うならこれから申請書の様式をつくる」というサプライズがまっていました。そして、研究室に配属されてからは「そんな制度があるなら自分も使いたかった」というメンバーもいました。ここまでは至らずとも、例えば一年前の授業の資料を学内のシステムで探してみる、先輩を捕まえて情報収集をする、といった地道な情報収集活動は、必ず成績につながります。過去の模範解答があったり、課題内容や傾向をわかって授業を聴き始められたりするだけで大きなアドバンテージです。知っているか、知らないかという違いはとても大きなものです。

そして、他人に誇れる活動をすること。つまり、他人がやらないことをやって「人とは違う!」とアピールできるようになっておくこと。この夏のインターンシップに向けて多くの企業の方と面接をする中で、これがとても重要だったと感じました。私はコンピュータサイエンス学部だったので、趣味でウェブサービスをいくつか作りましたが、その程度をやった人はたくさんいます。作るきっかけがユニークだったり、作る過程で困難を克服したり、最先端の技術をつかったり、それで大金を稼いだり、アプリにしてApp Storeのランキング上位を狙ったり…。学生時代に打ち込むそれぞれの活動において、どの点で他の人の活動との違いを出そうとするのかは、最初から考えておかねばもったいないと感じています。私の場合は、技術面よりも作るに至るまでの大人との交渉

の方が企業の方の関心を得ました。ほんの些細なことでもよいので、ぜひ考えてみてください。

最後に、できるだけ多くの人に出会うことと、もしくは本を読むこと。この会の懇談会に参加していろいろな人に声をかける、学生でも名刺を持ち歩く、イベントに出かける、小学校の同窓会を企画する、他の研究室やゼミに友人をつくるなど、積極的に多くの人と話をすることで、自分にはない視点や先輩方の貴重な経験からくる発見を今後に生かすことができるようになります。私は、先日の奨学生懇談会の終了後に社会人の方から貴重なお話をたくさん聞くことができ、今後の就職活動に向けて弾みをつけることが出来ました。人脈は一生の財産です。

これらはどれも言い古されていることばかりですが、それでも私は改めてここに記しました。年齢や奨学生という立場の近い者同士でのこういった話から、何か感じていただければ幸いです。

私は大学院に進学し、この会から引き続き支援を受けながら残り1年半ほど学生生活を送ります。日頃からいただけのご支援に感謝しつつ、より多くを自分の将来や社会に還元できるよう、有意義な学生生活を送りたいと思います。

これをお読みの皆様と来年の懇談会にて再開できます事を楽しみにしております。

(No. 4616 東京工科大学大学院 バイオ・乗法メディア研究科  
コンピュータサイエンス専攻 修士1年)